

科目名	学問へのステップ I	
担当者	人間関係学部教員・法学部教員	
科目情報	基礎科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	大学で「学ぶ」ために必要な9つの力（聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く・表現する・伝える・考える）と、漢字検定準2級レベルの漢字運用能力を身につける。
	到達目標	1. 上記の9つの力とは何かが理解でき、おおよそ運用できるようになる。 2. レポートがワープロで作成できるようになる。 3. 前期末漢字テスト（100点）で、90点以上とれる。 （上記内容のうち、2については「インターネット演習」で具体的に学ぶ。）
授業計画	(1) 履修全般についての指導、学問へのステップ I・IIの授業についての説明 (2) スタディ・スキルズとは (3) ノート・テイキング (1) (4) ノート・テイキング (2) (5) ノート・テイキング (3) (6) リーディングの基本スキル (1) (7) リーディングの基本スキル (2) (8) より深いリーディングのために (1) (9) より深いリーディングのために (2) (10) 大学図書館における情報収集 (1) (11) 大学図書館における情報収集 (2) (12) アカデミック・ライティングの基本スキル (1) (13) アカデミック・ライティングの基本スキル (2) (14) アカデミック・ライティングの基本スキル (3) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストを前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業後に課題を出すので、次の時間までに済ませておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	学習技術研究会編著『知へのステップ（第4版）』2015年くろしお出版 ISBN: 978-4-87424-650-4 日本漢字教育振興会『10日間でできる漢検練習問題 準2級』改訂版 日本漢字能力検定協会 ISBN: 978-4-89096-2501
	参考文献	各教員の指示による
成績評価の基準と方法	基準	上記評価方法により60%以上達成した者を合格とする。
	方法	漢字一斉テスト（30点）、知へのステップ（70点=授業参加貢献度<30点>+宿題<10点>+期末共通レポート<30点>）
備考	原則として4回以上欠席すると不合格とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	学問へのステップⅡ	
担当者	人間関係学部教員・法学部教員	
科目情報	基礎科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	大学で「学ぶ」ために必要な9つの力（聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く・表現する・伝える・考える）と、漢字検定準2級レベルの漢字運用能力を、身につける。
	到達目標	1. 上記の9つの力について理解でき、運用できるようになる。 2. わかりやすいレポートがワープロで作成できるようになる。 3. プレゼンテーションができるようになる。 4. 後期末漢字一斉テスト（100点）で、80点以上とれる。 （上記内容のうち2については「インターネット演習」で具体的に学ぶ。）
授業計画	(1) 後期履修指導、効果的なアカデミック・ライティング (1) (2) 効果的なアカデミック・ライティング (2) (3) 読解・要約→意見を述べる (1) (4) 読解・要約→意見を述べる (2) (5) プレゼンテーションの基本スキル (1) (6) プレゼンテーションの基本スキル (2) (7) わかりやすいプレゼンテーションのために (1) (8) わかりやすいプレゼンテーションのために (2) (9) プレゼンテーションのための準備・個別指導 (10)各学生によるプレゼンテーション (1) (11)各学生によるプレゼンテーション (2) (12)各学生によるプレゼンテーション (3) (13)各学生によるプレゼンテーション (4) (14)各学生によるプレゼンテーション (5) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストを前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業後に課題を出すので、次の時間までに済ませておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	学習技術研究会編著『知へのステップ（第4版）』2015年くろしお出版 ISBN: 978-4-87424-650-4 日本漢字教育振興会『10日間でできる漢検練習問題 準2級』改訂版 日本漢字能力検定協会 ISBN: 978-4-89096-2501
	参考文献	各教員の指示による
成績評価の基準と方法	基準	上記評価方法により60%以上達成した者を合格とする。
	方法	漢字一斉テスト（30点）、知へのステップ（70点=授業参加貢献度<20点>+宿題<10点>+プレゼンテーション（20点）+期末共通レポート<20点>）
備考	原則として4回以上欠席すると不合格とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	インターネット演習（人）	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi	
科目情報	基礎科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	大学4年間、卒業後に必要とされるコンピュータの基本操作と、インターネットの活用について説明する。学内の情報基盤、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションのためのソフトウェアに関する基礎的事項も扱う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの概念と基本的な操作ができるようになる。 ・電子メールのしくみと基本的な操作ができるようになる。 ・Webブラウザを使った情報検索ができるようになる。 ・ネット上のその他のサービスを活用できるようになる。
授業計画	(1) 講義についての紹介、基本の用語と操作 (2) かな漢字変換と文字入力 (3) 書類の保存と読み込み、ファイル管理 (4) WWWとインターネット (5) 情報の検索1 (6) 情報の検索2 (7) Moodle、ePortfolio システム等の紹介と操作 (8) ワードプロセッサの基本操作、情報の加工 (9) 電子メールの基本操作 (10) 電子メールの応用操作 (11) 表計算ソフトの基本操作1、情報の蓄積 (12) 表計算ソフトの基本操作2、情報の加工／分析 (13) プレゼンテーションソフトの基本操作、情報の発信 (14) ホームページの作成 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題を必ずやること。
使用教材・参考文献	使用教材	適宜ハンドアウトを利用すると共に、年度に応じた教科書を提示する。
	参考文献	参考文献は適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	レポートの作成等に必要となる各種ソフトウェアの基本操作が理解できているかどうかを合否判断の基準とする。
	方法	受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。編転入の学生、2年生以上は「再(未)履修クラス」で受講すること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	インターネット演習（法）	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	基礎科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	大学での教育研究においてコンピュータを活用していくために必要な基礎的な知識や技能を学ぶ。情報の収集・加工や、ワードプロセッサや電子メールを使ってのレポート及びプレゼンテーション資料作成のスキルを習得する。また情報モラルに関するルールや用語について学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 必要とする信憑性の高い情報を効率よく検索できるようになる。 ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトを用いて、レポートや論文を作成したり、プレゼンテーション資料を作成したりすることができるようになる。 情報モラルに関する用語の意味や、問題に直面したときにどのように行動するべきかについて説明できるようになる。
授業計画	(1) 【B1】 オリエンテーション、コンピュータの基本操作 (2) 強いパスワード、プリンタと用紙、掲示板を用いた自己紹介、情報モラル(1) (3) インターネットの仕組み、情報検索の基礎、情報モラル(2) (4) eポートフォリオの使い方 (5) インターネットでの効率的な情報検索、情報モラル(3) (6) USBメモリの活用、ショートカットキー、コピー&ペースト、情報モラル(4) (7) 電子メール【B2】 Wordの文書作成と印刷・メール送信、情報モラル(5) (8) 【B2】 Wordによるレポート作成、情報モラル(6) (9) PowerPointによるプレゼン資料作成の基礎、情報モラル(7) (10) PowerPointによるプレゼン資料作成、情報モラル(8) (11) Excelの基本操作、情報モラル(9) (12) Excelによる表計算【B3】 プレゼン資料のテーマ選定、情報モラル(10) (13) 【B3】 プレゼン資料作成のためのアイデアと情報収集 (14) プレゼン資料の作成(1) (15) プレゼン資料の作成(2)、総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 使用教材を必要に応じて読む。 意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 小テストや使用教材を用いて復習する。 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。
使用教材・参考文献	使用教材	富士通エフ・オー・エム株式会社『情報リテラシー アプリ編 Microsoft Word 2013 / Microsoft Excel 2013 / Microsoft PowerPoint 2013 対応』（FKT1310）FOM 出版，2013年，ISBN9784865100488 [¥1,800+税]
	参考文献	富士通エフ・オー・エム株式会社『情報モラル&情報セキュリティ』（FKT1327）FOM 出版，2013年，ISBN9784865100747 [¥500+税]
成績評価の基準と方法	基準	すべての小テスト（満点）とすべての課題の提出を単位取得の条件とする。
	方法	最終試験(60%)、最終課題（40%）の累積で評価する。欠席は減点する。
備考	指定されたクラスで受講すること。使用教材は計2冊である。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	総合教養講座 I	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	基礎科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	読替科目：平成 24 年度以前入学生「総合教養講座」	
科目概要	授業内容	就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等において求められる一般的な教養を身につけ、広い視野と合理的な思考力を養う。授業ごとに小テストを実施する。
	到達目標	世界の諸地域について基礎的な情報や歴史を理解できているとともに日本の歴史の基礎的な流れを理解できている。
授業計画	(1) 授業にかかるオリエンテーションおよび教養力小テスト (2) 世界の諸地域 1 (3) 世界の諸地域 2 (4) 世界の諸地域 3 (5) 世界の諸地域 4 (6) 日本の近現代史 1 (7) 日本の近現代史 2 (8) 日本の近現代史 3 (9) 日本の近現代史 4 (10) 特別公開講義 (11) 日本文化史 1 (12) 日本文化史 2 (13) 日本文化史 3 (14) 日本文化史 4 (15) 授業内容の総まとめ	
自学自習	事前学習	新聞やニュース番組を毎日みる。
	事後学習	既受講内容について復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	オリジナルテキストを使用する。
	参考文献	随時紹介する
成績評価の基準と方法	基準	世界の諸地域について基礎的な情報や歴史を理解ができているとともに日本の歴史の基礎的な流れを理解している。
	方法	授業参加度 55 点 定期試験 45 点
備考	授業参加度評価中には読書課題の提出も含む。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	総合教養講座Ⅱ	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	基礎科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等において求められる一般的な教養を身につけ、広い視野と合理的な思考力を養う。授業ごとに小テストを実施する。
	到達目標	日本および世界の政治・経済活動についての基礎的な知識を習得する。
授業計画	(1) 授業にかかるオリエンテーションと教養力テスト (2) 世界の政治 1 (3) 世界の政治 2 (4) 日本国憲法 (5) 日本の政治 1 (6) 日本の政治 2 (7) 日本の政治 3 (8) 特別公開講座 (9) 経済社会の様相 (10) 現代社会と経済の関係 1 (11) 現代社会と経済の関係 2 (12) 現代社会と経済の関係 3 (13) 労働と社会保障 (14) 国際経済 (15) 授業の総まとめ	
自学自習	事前学習	新聞やニュース番組を毎日みる。
	事後学習	既受講内容について復習する。
使用教材・参考文献	使用教材	オリジナルテキストを使用する
	参考文献	随時紹介する
成績評価の基準と方法	基準	日本および世界の政治・経済活動についての基礎的な知識を習得している。
	方法	授業参加度 55点 定期試験 45点
備考	授業参加度評価には読書課題の提出も含む	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル